

井草今会報

第8号



井草会役員

変更のお知らせ

井草会々長遠藤繁明が「身上の都合により辞任しましたので、後任として、今年度の定期総会において、副会長の燕木芳郎が

新会長に選出されました。

またその他の欠員の役員も左記の通りに選出されました。

尚、井草会顧問の大沢清男先生の転職にともない、新たに古屋尚子先生に顧問に就任して頂きました。

会長 燕木芳郎（高校八回、E組）

副会長 鈴木令紀（高校十二回、B組）

庶務 沢 正信（高校十四回、E組）

顧問 古屋尚子先生（井草高校教師）

井草高校恒例の井草祭も九月二十七日の体育祭を迎えて最高

潮、アイスクリームを沢山買って頂いて、井草会の資金獲得保にと張切っていた井草会の係一同、小雨が時々降る肌寒いお天気にまつたくがかりしてしまいました。それでもいつの間にか、売店

の教室が会員の集会場になつてクラスの人たちと、あるいは先輩後輩と歓談するなごやかな風景もみられて楽しい一日でした。

自分の本業の合間をぬつて、貴重な休日をつぶすのは勿論のこと、会社や学校が終つてから東奔西走しなければならない井草会の役員の人たちには、体育祭に売店を出すことにしても仲々容易な仕事ではないようです。まして折角発送した物が宛先不明で相当数戻つて来る現状に至つては、役員の人たちの勇気もくじけてしまつというものです。

私も出身校や、世話になつた勤務校から年々会誌を送つて頂いたり、招待状を頂戴した

りして新しい時代の流れを知つたり、在校中の思い出を楽しんだりしております。そしてせめて自分の動静位いはお知らせしなければ痛感している昨今です。私が井草会の顧問を命じられて約半年、まだその仕事の系口を見せて頂いただけですが私に果してどれだけの仕事が出来るのだろうかと心配が先に立ちます。何のお役にも立たないかもしれません。会員の方の深い理解と協力を得て、会の運営と発展に努力して行きたいと思っております。どうぞよろしく。

どうぞよろしく——子尚古屋・問・新顧

(井草高校教師・化學)

三十九年度

女子役員は一人三役

定例同窓会

昭和三十九年度定例同窓会は、去る五月十七日(日)母校の講堂を中心に盛況のうちに行なわれた。まず初めに講堂において定例総会が行なわれ、蕪木新井草会長を証認し、次いで昨年度決算報告、今年度予算案等を可決証認して総会を終え、続いてその他の行事に入つた。

講堂は今年もビヤホールとして開放され大アーバルがいくつから置かれ、それぞれにおしゃべりの花が咲いた。講内の売店にはビル、コーラ、ジュース等が置かれたが、ものすごい売れ行きで

(特にコーラは大変なもの。やはり時勢というものだろうか)売子からウエイトレス、果てはコップ洗いまで全て兼ねた女子役員は目も回らんばかりの忙がしさ。それでも「楽しい同窓会、これ位はサービスしなくちや」と大いにハッスルしていた。

新企画の『うたごえ喫茶』の方もステージ・リーダーのもとになごやかな雰囲気につつまれ、これなど、部室の飾りつけや宣伝に一工夫すれば、これから先ますます利用されるものとして期待される。

卒業生の数はやはり例年通り、本年度卒が圧倒的に多く約三百名程。テーブルを囲み、クラス会のような形でそれぞれ祝盃?を上げ、とても愉快そうに一日を楽しんでいた。レコードも絶えずほどよい音量でかけてあり、ダンスの出来る状態にしてあつたが、みんな話に夢中になり、ダンスを楽しむ人はごく少数、それが会の終り頃にしか見られなかつた。来年はもっと気軽にダンスを楽しめるような雰囲気を作ることに工夫をこらしてほしいものである。

母校だより

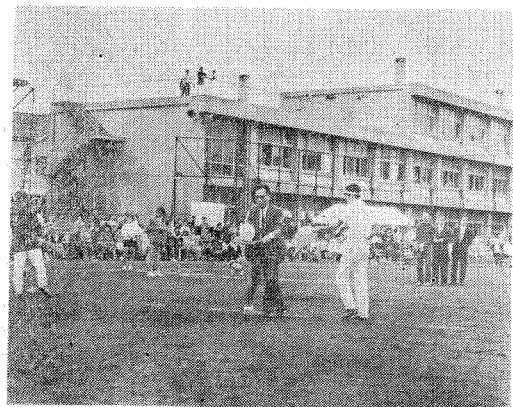
新校舎完成

昨年の夏より工事にかかるついた。もとの西校舎の跡にこのほどようやく鉄筋コンクリート三階建のクリーム色に塗られた新校舎が出来上つた。この新校舎は一階が化

学、二階が生物、三階が物理教室の三特別教室で、各階の広さは約二二〇平方メートル（これは普通教室の約二倍）で、各階とも六対四の割合で教室とその準備室に別れている。なおこの校舎は第一期で、将来はさらに東に伸ばして現在の東校舎につなげる予定である。

井草祭見聞記

今年も母校においては九月二十二日より五日間にわたって井草祭が行なわれた。毎年似たりよつたりで、若人の情熱も年ごとに画一化されているんじやなかろうかと思わせるのが展覧会。でも喫茶室を設けたのは成功のようで、ヤンキーの発明による葉



いろな場所で見うけられた。息つきつつ胃の中に息づく光景はいろ

さて文化祭だが、生みに生んだり、二年十クラス、一年九クラス。高いのあり、太いのあり、栄養のよく行き届いた連中ばかりだから杉並公会堂は満員。くずれたらどうしようというのが公会堂側の切実かつ現実的な悩みであった。

十九年四月、都立昭和高校より来校。

住所 北多摩郡田無町一六一

掛川久先生（国語）

昭和十二年長野県生れ。東京学芸大学卒

三十九年四月、大田区立東調布中学校より来校。

住所 中野区野方町二の一四五三、原田方

大和真知子先生（保健）

昭和十五年秋田県生れ。都立保健婦学院

を卒業して三十九年四月、井草に奉職。

住所 中野区上高田一の三〇第一清風荘

荒木豊先生（体育）

東京教育大学卒。三十九年四月、都立富士高校より来校。長野県出身。

住所 北多摩郡保谷町下保谷三五三

滝沢久美子先生（体育）

東京女子体育短期大学卒。三十九年四月都立第一商業高校より来校。山梨県出身

住所 武藏野市御殿山一の六の九 第二愛隣荘内。

転任

お知らせ

ダンスとおしゃべりの会へどうぞ

日時

1964年11月29日 (日)

PM 4:00~PM 8:30

会場

井草高校視聴覚教室

会費

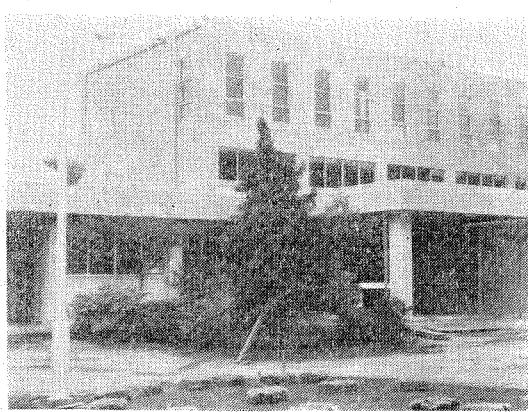
200 円 (飲みもの付)

バンド

理科大 ブルー・レイ

〃 ブラック・マリ

ア・ジャズメン



井草高校同窓会

小倉義文先生（数学）

三十九年四月、都立小平高校に転職。

大沢清男先生（国語）

三十九年四月、文京区立茗台中学校教頭として転職。



終戦つ子大いに語る

出席者

左より 内藤誠一郎（D組）田村霞（C組・立教大学）瀬川正彦（G組）戸田彰（C組・埼玉大学）井ノ川洋（E組）鈴木誠次（E組・東京電機大学）新井健一（B組）戸田明（A組・中央大学）中埜圭子（A組・津田スクールオブビジネス）本田喜久子（F組・山脇短期大学）津川英佐子（C組・旭ガラス）

（敬称略）

今日は今年の三月、母校を卒業した高校第十六回生にお集り頂いて、いろいろと若い新鮮な意見を述べてもらうことにしました。この第十六回生は、丁度あの第二次大戦の終戦の昭和二十年から二十一年にかけて生れた人々で、いわゆる終戦つ子であり、いわば初代現代子とでもいうべき世代の若人である。そこで我々編集員一同、どんな意見が飛び出すかと興味をもって座談会に乗り込んで來ました。尚、紙面の都合で当日の全意見を掲せることができないことを、あらかじめお詫びいたします。

「良妻賢母」への道

——井草を卒業してから早くも四ヶ月。皆さんの現在の生活はどう。楽しいですか
鈴木ええ結構毎日楽しいです。授業はあまりおもしろくないですが、大学の友達なんかと喫茶店に行っていろいろな問題について話などをしていく楽しくやっています。

戸田明 そうかな。僕は大学にはすっかり失望しているね。いわゆるマスプロ大学というのかな、学生が多く過ぎて教室に入

りきれないんだ。

田村 それは確かだね。大学に入る前から先輩たちに聞いたり何かで読んだりして薄々は知っていたが、あれほどとは思わなかつた。

戸田明 それにもう一つ。僕は哲学科なん

ですが、哲学科の半数位いの学生が他の学部を受けたが落こつて、浪人するより

はという訳でいやいや来ているんですねだから話によると転部とか途中退学で年々学生の数が減つて行き、卒業するのは半数以下になるそうです。そんな訳で開

瀬川 浪人生活というのは本当に精神的に不安定な生活ですね。受験ということが目の前にちらついて、自分が本当にやりたいことがほとんど出来ないのがい

やですね。

新井 やはりなんといつても落ちつかないのがいやですね。気ばかり焦つてしまつてね。

井の川 そう、焦つてもしようがないんだと自分自身にいくらい聞かしても駄目で、どうしても焦りが出て来るんだな。

中埜 はじめのうちはしかたがないのじゃないかな。

戸田彰 僕も授業はつまらないな。でもは

じめのうちはしかたがないのじゃないかな。でも大変で、はじめのうちはいいになつてやめようかと思つたわ。でも最近ようやくなれて来てどうやらこうやらやつています。また大変なだけにやりがいがあるわね。

津川 そうね。会社に入りたての頃は仕事

を覚えるのがとても大変で、それで精いっぱいでした。でも仕事にも慣れたこの頃は、とても自分が無気力な気がするん

本田 私の学校の方針は「良妻賢母」の育成を目指しているんです。その点私も良妻賢母になりたいと思うので（笑）やはり勉強の方は大変ですがどうやらやっています。

内藤 つまらないですね。何かまとまつたことが出来ないのがいやですね。

瀬川 浪人生活というのは本当に精神的に不安定な生活ですね。受験ということが目の前にちらついて、自分が本当にやりたいことがほとんど出来ないのがい

やですね。

現在の生活、あるいは社会なんていうものに不満を感じていますか。

戸田彰 小さい事にはいろいろありますがこれといって、取り立てていうほどの不満はありませんね。

鈴木 何か充足りないという感じはしますけれど、不満というほどのものじやないです。

瀬川 現在、自分の住んでいる周りの環境とか、自分の成長段階の精神状態には不満はないのですが、自分の生活態度、つまり自分の無気力さ、怠惰心などには不満を感じていますね。

自分の生活態度 に不満

内藤 僕もそうだな。外的、あるいは物質的な

的な不満じゃなくて、内的な問題なんだな。

津川 私も社会とか会社の事については、

あまりよくわからないせいか別に何にも感じないわ。でも自分の生活という事になると不満を感じるわね。不満というよりは、不安感かもしれないけれども。私と同じ十八才の人でも、もつと厳しい生

活をしている人も世の中にはいると思うと、今の生活態度じやいけないと思うわ。

—— そうした態度をどうしたらば改められると考えてますか。

津川 よく分らないわ。でもやはりいろいろ勉強する必要はあるわね。

中埜 確かに勉強不足ということはあるけれども、その前にみんな諦めちゃうんじやないかしら。特に自分と関係のない社会的な問題なんていうものはなお更ね。

内藤 政治の貧困なんていう言葉をよく聞くけれども、僕には実感として沸かないな。

田村 不可抗力として締らめちやうんだ

瀬川 ただ諒解だけでなく、怠惰というこ

とが大きいのではないかと思いますね。

戸田明 そうした考え方は今の中産階級を代表しているね。井草に来ている人の大

多数がまたそうちた階層の出身じやないの。でも考え方によつては、今の世の中は中産階級には暮しいんじやない

の。 中は中産階級には暮しいんじやないの。

井の川

そんなことないんじやないかな。

戸田明 僕の大学の友達にね、民青（注・民主主義青年同盟）に入つてゐる奴がい

るだけれども、彼らにはまるつきり主體性というものがなんじやないかと時々思うことがあるんだ。組織というものを盲信していく、その組織のいうことは全て正しいと思ひ込んでいるみたいなんだ。

だ。だから自分の意見なんていうものはなくて、いわれるままに行動しているんじゃないかしら。特に自分と関係のない社会的な問題なんていうものはなお更ね。

内藤 政治の貧困なんていう言葉をよく聞くけれども、僕には実感として沸かないな。

本田 でもその反面、都會人特有の個人主義的な人が多いのじやないかしら。だから

ら良い意味での連帯感というか團結心といふか、そういうもののが少ないので。

戸田明 個人主義に徹していれば、それはそれでいいんじやないかな。僕なんか自分の生活を他人に干渉されたくないね。

本田 それは私だって干渉されたくないね。でもね、個人主義的というのは自分としては良いかも知れないけれど、害のある部分の方が多いのじやないかしら。

たとえば連帯感みたいなものがないから自分の殻の中にとじ込もつて、たとえ不満があつてもそれを自分だけの問題としちしまつて、協力してその不満の解決するような方向にもつていてこうなんて考えないのじやないかしら。

井の川 そうかも知れないな。

戦争への不安と期待

—— 皆さんは昭和二十年生れ。いわゆる終

戦っ子で、戦争というものを全然体験していない世代なのですが、戦争というものについてどう考えますか。

内藤 戦争の善し悪しは別として、僕は戦

争状況というものはあってもいいと思いますね。確かに今、自分は食うにも困らず安閑とした生活をしているからかもしれませんよ。だけれどもそうした時代に

なれば非常に苦しい生活かもしれないが生きるという気持が胸の中にたまるのじやないかな。そうした充実感だけでも羨ましいな。なにしろ僕たちは空っぽですからね。

瀬川 僕のおやじも溝州から裸一貫で引きあげて来て苦労して子供達を育てたそんなんで、今の僕の生活なんかを見ていてよくこぼすんです。しかし僕としてはおやじが戦争で苦労したなんてピンと来ないんです。だから日本でもクーデターでも一発やらかせば、無氣力な状態なんかはふき飛んでしまうんじやないかな。

（笑）

瀬川 そうそう、そう思うよ。

井の川 物騒な世の中になつたな（笑）

鈴木 僕も戦争そのものはいやだけど、そ

うした状態というのは必要だと思いますね。やはり人間苦労しなければいけないでしょう。生きなくてはならないという状態に追いかまることは必要だな。

井の川 しかしそうした状態は何も戦争状態やなくもあるんじゃないかな。

内藤 どういう状態だよ。

井の川 よくは分らないけれども、いわゆる下積みの生活をしている人たちなんて

瀬川 戦争以外では不可能だよ。

戸田明 戦争というものは、ある程度自分

を忘れ、物事に没頭する事が出来るな。

それが善いか悪いかは別としてね。

中埜 戦争はいやだけども、そうした自分

を忘れさせる緊迫した状態は、私もやは

り必要だとと思うわ。

本田 戦争という手段はいやだけれども、

国を上げてまとまるといえ、やは

り戦争以外にはないんじやない。

井の川 でも忘れちやいけないことわね、

戦争が起これば必ず誰かが死ぬとい

うことですよね。そんなこと無益なことだ

と思うよ。

戸田明 いや今話していることは、戦争の

善悪の問題じやなくて、そうした状況に

ついでさ。たとえば戦争中特攻隊として

出かけていった人っていうのは、善し悪

しは別として目的があり、その目的に自分をそわして向っていった訳だ。だから

そうした点では目的もなく夢遊病者的な生活をしている僕たちみたいな人間には

そうした人間が羨ましく見えるんじやないかな。

戸田 昁ね、戦争っていうものはそれがあ

るからこそだと思うわ。だって戦争する

ということは自分の命が役立つていうこ

とで、それが自分に一番生きなくてはい

けないんだという責任を負えるんじやない

いの。国家のために自身の命を役立たせ

るんだという責任感が起きるんじやない

の。

鈴木 しかしね、国家に一つのものを尽す

ということは今もあると思うよ。それ

は戦争で死ぬという形じやなくともほか

に何か、国に役立つ物を作るとか残すと

かいうことでね。それで國に何かを捧げ

るということが出来るんじやないかな。

新井 戦争みたいな緊迫感は、自分で作る

うと思えば、それは他の形で自分で作れ

ると思うね。でも僕にはそれだけの根性

がないんだな。

戸田明 そうね。あの四年前の安保闘争の

時には、僕自身まだ幼稚だつたせいからどうか知らないけれども、とにかくすごく

一つの象徴的表現かもしれません、自分が生か死かという状態に置かれることが

新井 僕もやはり現在のところは大学に入ること、第一ですね。

堅張したね。当時、クラスで新聞を発行して物事に没頭していた一つの状態だったね。

新井　僕も同じようく考へるね。
津川　それは結局、私たちがあまりにも無
　　気力な生活をしてゐるからね。一度そ
　　うを羨ましいと思ひますね。

瀬川 こういう生活をしたいというものはまあ漠然としてはいますがいくつもありますね。しかしそれが多過ぎて、どれが本当の希望なのか分らなくなつて来ます

三。 今までに戦争の善し悪しは論じなかつたけれども、戦争が起るとしたらば：

した状態に自分を置いて自分の気力といふようなものの限界を試してみたいと思う。でもそうだと云つば、戦争はうだつね。

それに経済的にみても、現在働いていた
いので金銭的な裏付けがないので何とも
ハ浅ない」ということもありますね。

井の川 いやだね、どうしても。

よくないのだから、それに代る緊迫した

中埜 私としては、今学校でやっている事

田村　それはいい訳がないよね。

よくないのだから、それに代る緊迫した状態を自分で作り出すことが必要なのにやないかしら。

新井 それは分っているけれども、現実にはそうはないなんだな。

中埜 私としては、今学校でやっている事を卒業してから何らかの形で使立たせることが出来る生活がしたいですね。

戸田彰 僕は将来の事なんかあまり考えないみたいだな。

争となればことは別でしよう。
中埜 でもやつぱりね。

よくないのだから、それに代る緊迫した状態を自分で作り出すことが必要なのに、やないかしら。

新井 それは分っているけれども、現実にはそういうかないんだな。

中埜 私としては、今学校でやっている事を卒業してから何らかの形で使立たせることの出来る生活がしたいですね。

戸田彰 僕は将来の事なんかあまり考えないみたいだな。

鈴木 あのね、今の人ってとても現実的なんじやないかなと思うんだ。何か目先の事だけしが考えていないんだ。しかしこ

緊迫した状態で、そういうものの最も強いものが戦争だということだけであって、だから僕だって戦争をしたいということじやないんだ。

新井 よくないのだから、それに代る緊迫した状態を自分で作り出すことが必要なのじゃ。やないかしら。
新井 それは分っているけれども、現実にはそうはないなんだな。
——ところで将来の希望とでもいうか、これから的生活なんていうものについてどう考えているんですか。

中埜 私としては、今学校でやっている事を卒業してから何らかの形で使立たせる事この出来る生活がしたいですね。

戸田彰 僕は将来の事なんかあまり考えないみたいだな。

鈴木 あのね、今の人ってとても現実的なんじやないかなと思うんだ。何か目先の事だけしが考えていないんだ。しかしこれだけはどうしてもやりたいんだという夢みたいな、押えても押え切れぬものがあるってもいんじやないかと思うんだけれどもな。どうも今の人つていうのは

もつと夢を持とう

——戦争はいやだという反面、戦争から受ける緊迫感を望んでいる事に矛盾を感じませんか。

内藤 僕としては時間を尊重しますね。つまり大学に入つてそれから考えて行つて将来のめどがつくんじやないかな。今の目標は、とにかく大学に入ることですね。

小さく固つてしまつた現実的な人間つて感じるな。

はどうしても自己の事しか考えず、大きな理想なんていうものは持てないんじやないかな。またそれが普通なんだと思うがね。

井の川 しかしね、僕たちはまだ若いんだから、もっと理想的な考え方を持つてもいいんじゃないかな。

鈴木 そう思うよ。僕なんかは出来るかどうかは分らないけれども、機械工学科に入つて何かデカイものを作りたいと思ってるね。それはダムでもいいし船でもいいし何でもいい。とにかく三十歳までに何か大きなものを作りたいね。

内藤 僕もそうした理想みたいなものを持ちたいと思うけれども。しかしね、実際的にそんなことを考える余裕は今はないとだな。浪人していると(笑)

新井 そうだな。僕も理想みたいなものは持っているが、今のところはそれがすぐく遠くに感じられるんだな。

内藤 そうでもないんだな。高校の時からそうだったもの。いつてみれば無気力なんだな(笑)

戸田彰 そう、理想みたいなものはやはり

沢山ありすぎてこまってしまう。でもその中のどれが本当なのか分らず、ついふらふらしているうちに結果としては何もしないということになってしまってはいけないかな。

瀬川 それに自信というか、裏付けというか、とにかくそうしたものがないので、その目的に踏み切れないということもあるんじゃないですか。

本田 私なんかは諦らめてしまう方ね。それはいろいろやつてみたいことはあるけれどもどうせ実現出来ないだろうって。中埜 私もそういう面があるけれども、でも自分の理想みたいなものに少しでも近づける様な努力をする必要は絶対にあるわね。

内藤 だから僕が大学に入るのもその努力の現われさ(笑)

鈴木 なるほどね。

(昭和三十九年八月収録)

私の現在の生活

紙上参加

第十六回卒G組

小沢美津江

入社してから半年になりますが、全ての面において最も痛切に感じた事は、時間が足りない事と、日に日に馬鹿になっていく事です。私の課は電子計算機を扱うところですが、機械が入るのは来年なので、現在は準備期間となっています。

入社前の期待は全く裏切られた感じです。第一に準備期間のためか、仕事が全然ないのでバリバリやって行こうという意欲がなくなってしまったこと。第二に新しい課なので同期の人が多く、会社の組織は勿論社会というものについてのいろいろな事が見え今だにわかっていないことです。

このような調子で一個の社会人としての自覚もない中途半端な生活を送つて来ました。また、毎日の通勤や会社での仕事とは別に、気を使うことが多いので家に帰ると寝るだけという毎日が続きました。

しかし十月には材料が入るので仕事も出来ると思いますから、心起一転して今まで実行出来なかつた、退社後の時間の活用を大いにして、はりのある生活を送ろうと思います。

(東邦レーヨン勤務)

いぐさ

石神井の池のは

とりに住んでから
十二年になる。井

草の学校に勤めた

のはそれより八年前だから、練馬に縁づいたのは二十年といふことになる。随分長い間であった。私の人生の肝心なときを二十年間過したということは貴重なことである。

今私にとっては『ダテ』にも、この長い年月を『アダ』『オロソカ』な『時』であったなどと思う心は一片すらない。意義深いトキである。冬の寒い朝、三宝寺池のほとりにいく度か足をはこぶ。寝室から起きてた野鴨が湯気立つ池辺に羽ぶりを正している姿など、いま時の東京人にはみられない風情。よいところに住んだものよと心の巣ごもりを感じつと味わう。

夏は朝まだき。頑はない悪童どもが『魚釣るべからず』の立札の前に、糸をたれる。時には大の男が、あたかも禁断の木の実を四辺をはばかりながら食うがごとく二三の魚を網中に秘して悦にいつている姿など人の心のわれさをかいまみて考えこんだり、横目でよい所に住んだものである。最近、といつてもここ二、三年、羽振りのよい都会議員が出たせいもあってかどうかは知らんが二つの池辺が『近代的』に整容されてコンクリートの堤防が画然と計算つくめに池と道との間を間仕切りした。見た目には整然たる秩序を印象づける。でも私の心にはど

ういわれようと密着しない。

池草のほとりに足をとられながら、日高か何か小魚を見る人の姿や人の心は最も自然で素直なことだ。それが失なわれるのは悲しくもまた淋しいと思うのは果たして老境の感傷か！

同窓会誌をつくるから、私にも何か一筆という依頼は、はじめて。随分奇雑なこと。

今まで私はそんな依頼を受けたことがない。二三枚でよいのですからと幹事さんの話。もともとどこの学校でも同窓会というものは二面性があつて、片や如何に会として継続、存在させるかという使命、他面学窓を同じくしたもの

今おもうち

大野英雄

固定的に『五』の日のときには、狹窓のどの店にいったら井草の誰かがいるという不斷の会の脈絡のある企てがもう立てられないよいのではなかろうか。これは例えばの話しだって非難でも批判でもない。

オリンピックの仕業なら九千万が一瞬時に手に汗を引き、快哉を叫んでも、時を異にする同窓生の共感を集約することとは決して容易なことではない。いくつかの心のサークルが拡大と、擦頭、勃上したものを掌握して、ねつとり、こねあげることは時をかけても果たして不可能なものであろうか。謝々。

(井草高校教師、社会科)

戦争の中の青春

高女一回二組 後藤(旧姓中島) 葉子

都立井草高校の前身、井草高女は昭和十六年四月に誕生致しました。誕生当時は府立第十八高等女学校と呼ばれ、高女と書かれた文字を中心にして桜の花びらが十八枚連なる校章でした。

昭和十六年といえば、かの大東亜戦争勃発の年です。当时 東京府の教育五ヶ年計画とやらで、府立の中学、高女が統々 開校されつありました。十八高女も鷺宮駅北西十二分のところに府立五商、府立二十中と共に畠の真中に仮校舎が建てられました。

上井草に本校舎が建てられましたのは予定より大分遅れ、二年生の終り頃と思われますが、引越す時の状況は今もありありと思い出す事が出来ます。遠く続く畠の中の道を、生徒一人一人が椅子や理科の標本やらを抱えて、何往復もして運んだのです。ボコボコのほこりの道でした。デコボコの道の所もありました。車は全然見当りません。出発する時には並んでいた生徒の列もいつしか早い人、遅い人にバラバラになり、鷺宮の仮校舎から上井草の本校舎への道のりを点々と埋めました。行く人、又帰る人、生徒に交って先生方の本を抱えた姿も見られました。

当初、本校舎は五ヵ年五期工事で完成する筈でしたが戦争が激しくなったため、直接戦争と関係のない全ての工事は中

止されました。井草の校舎も二期工事で打切られ、そこに新入生二百五十名を迎えた。ということは二学年しか収容出来ない校舎に三学年詰込まれた訳です。五クラスが三クラスに編成替えされ、一クラスの人数は七十名を越えました。

情操教育は軽視され、修練、作業が強化されました。教練の時間は木刀を持って、突撃の態勢をとったり、地に伏したりしました。「伏せ!」という先生の号令で、土に頬をこすらんばかりにすべり込んでベッタリと伏せるのです。この制服の汚し方の少ない人はもう一度やり直しをさせられました。防空演習、避難訓練は當時行なわれましたので、班編成はしっかりといて、伝令とか、復唱とかはこの頃、度々使われた言葉です。夏休みは防空壕を掘りに毎日学校に通いました。当時の私達の服装は、モンペに足袋に下駄ばき、白衣衿のかつたヘチマ衿の国民服、それに防空頭巾を背負っていました。

お正月、故人となられた角田先生を中心に古典班でカルタ会をしました。当時小倉百人一首は軟弱だというわけで影が薄くなり、愛國百人一首を夢中で暗誦し、とり合いました。

昭和十九年四月、また新入生を迎えました。収容人員二学年の所へ四年、学校はまさにはち切れんばかりです。この頃の事でしょうか。休み時間に教室を移動する時、廊下で生徒がぶつかりひしめき合い、始業のベルが鳴つても全然身動き出来ずキャーキャー大騒ぎするばかりで、今は亡き新井先生にどなれたりしました。

戦争はいよいよ激しくなり日本は国をあげての決戦態勢を

とりつつありました。六月一日、遂に四年生全員学徒勤員の通告を受けました。廊下で直立不動のまま、校長先生から厳

肅に申し渡された時、私達は来るべきものが来た、よしやる

ぞと武者振いの様なものを全身に感じていました。学校から

遠い人は西武柳沢の朝比奈鉄工所、学校に比較的近い人は田無の中島飛行機製作所に勤員されました。先生方も一緒に来て下さって、働いている私達の職場職場を廻っては、毎日優しく励まして下さいました。

昭和二十年三月二十五日。卒業式の日が来ました。本来ならば五年生で卒業するのですが、この年は一人でも多く、一刻でも早く学校を卒業させて、危殆に陥った祖国のために戦かわせようと全員四年で卒業させられました。卒業式当日は午前中は平常通り工場で働き、午後朝比奈に勤員されていた人、中島に勤員されていた人、共に学校にかけつけ式が行なわれました。『螢の光』は敵国の歌ですから歌わず、仰げば尊し』を齊唱し、校長先生からごじるのお話を伺いました。ごじるは大豆をすりつぶしてお味噌でのばして頂くのですが消化も良く栄養があつて力がつく、大変よい食べ方だそうです。校長先生からもつといろいろお話があつた事と思うのですがこの『ごじる』のお話だけが妙に鮮明に記憶に残っています。ところをみると、余程食べ物に飢えていたものと思われます。一時間足らずで式を終えると、私達は再び西武電車に乗り、柳沢と田無と別れ別れになりました。苦難の時代に女子校生活を終えた私達にとって、卒業の感傷は何も無かつた様に思います。

山で結ばれた友情

高校第十一回E組 笠原紀一

四ヶ月程前、親友が結婚した。その式は簡素ながらも多数の友達の心からの祝福と期待に満ちた素晴らしい式であった。彼と親友としての附合いは、井草の高校二年の夏の林間学校として上高地での共同生活をした時からであった。

その日は数日来の雨も止み、島々谷に添つた坦々とした山径は緑につつまれていた。島々から徳本峠を越え上高地までたつぶり一日を費やすこの径は、昔、ウエストンや小島烏水といった上高地の開拓者たちが歩んだ唯一の径であり、山を愛する我々が先覚者たちを思い、今なお静かさを保つこの峠越えをする事に意義を感じるのであった。鎌留を過ぎ、径は沢を離れ数日来の雨で小川と化した急な山腹の径となる。そもそも胸をつく様な急斜面のジグザグ登りが続く。島々から約七時間、やっとのことで登りつめたここ二三五メートルの徳本峠からの展望は、穗高連峰から明神岳へと岩稜が重疊し、その下には深く梓の清流が白い河原を見せて流れている。あまりにも印象的な眺めに魅入られ、今までの疲れを忘れて、自分の風の冷やしさで取戻すには、かなりの時を要したのであった。峠から膝が笑い出すほどの急坂を下ると白樺林の中のプロムナードともいう様な径が静まりかえった明神池まで続くのであった。我々十数名の井草バーティーが小梨平のキャンプ場に着いたのは穗高が黄昏れる頃であった。次の日

はモルゲンロートに輝いた焼岳に登り、夜はキャンプファイアを囲み大合唱となる。

それ以後数日雨に降られ穂高にも登れず、テントの中のトランプ遊びで気をまぎらわすのであった。そして小雨に煙ぶる小梨平を途中、崖くずれに怯えながら松本へ向ったのである。

先日、まだ武藏野を感じさせる様な静かな雑木林に囲まれた彼の新婚家庭を訪された。その時、はからずも出たのは、上高地に遊んで以来、計画だけで未だ実現されていない二人の徳本峠越えの話であった。澄み渡った秋空を見上げる度に今度は三人で古き良き昔日の思い出を思い起し、語りながら紅葉に包まれて歩を進める事を楽しみにしている今日この頃である。

球場と演劇と僕と……

高校第十四回F組 木村健太郎

先日、久しぶりに西武線に乗り、上井草を通過した。左手に上井草球場が見えるのを楽しみにしていたのだが、遂に見えず終いだった。本当に無くなってしまったのだろうか。思えば私の高校生活はこの球場と密接に結びついている。昼休みに学校を抜け出して芝生に寝そべり友と語り合つたのもここだつたし、快よい日ざしを浴びて横になつているうちにいい眠り込んでしまい、授業に遅れて青くなつたこともある。高校を卒業してからも一年間浪人した私は、行くべき大学もなく、演劇部の後輩の女生徒と二人、黄ばんだ芝を踏んでな

んとなくロマンチックな気分になつたりしたものである。大學に入って一年間は、新しい事を次々と経験したため、高校時代の事はすっかり忘れていた。だが変なもので、大学生活に慣れてしまうとまた高校時代がなつかしくなる。

いっぽし大人のつもりだった高校時代、私は三年間演劇部で過した。感受性の強い少年少女にとって、一番感情的に激しやすい要素を持つたサークルであった。演劇というものは難かしい芸術である。難解な脚本に専門的な知識などほとんど持っていない高校生がぶつかるのだ。分らないからライララする、加えてセリフが仲々覚えられない。セットを作るため夜中まで警備員のおじさんん頭をさげながらネバッタリする。公演の日が迫つて来る。気が立つていてからへマをやつた女の子を、ついどなりつけたりする。そこはそれ、感受性の強い高校生のことである「いいわよ。そんなに気にくわないならやめてやるわよ」すぐこうくる。おまけに思春期特有の恋愛感情という奴がある。ところが井草高校演劇部は男生徒の数が少ない。当然アブレの女生徒が出る。そんな訳で演劇部は部員の出入りが特に激しかった。こんな中で出来上がった芝居は技術的には勿論お粗末なものであろう。だがとにかく高校生が自分たちだけで作り上げたものである。大学の演劇サークルに見られる様な偽り物の理論などそこにはない。思春期の傷つきやすい心を持つた高校生が、何も分らぬところから生ずる悶々とした悩みの中で作り上げた芝居の中に、最も純粋な精神的独立があつたのではないかと、この頃思うことがある。

○
・ B
会巡り (その二)

井草高校で過した三年間の生活。その中には楽しかったり苦しかったりした思い出が、数限りなくみなさんの心の中に残っていることだろうと思います。その思い出の中でも、特にサークルで活動した時のことが一番多いのではないしょうか。

今日は前回に続いて、その思い出多いサークルを挙立つていった部員が、卒業後に作った会をいろいろと見て回ることにしましょう。

を廢めし、指導により大いな發展を望もう。

展志

も続いているクラブは他にみられないのじやないかと思つてゐる。これからも、暇をもうけては学校に出かけて行き、現役を励まし、OG会の、そしてハンドボール部のより大いなる前進を期している。

伝言板——大先輩の方々、左記へ御連絡下さい。東京都杉並区善福寺三丁目八の十
三。池津則子。

ハンボール部

井草高校が府立第十八高女といわれていた時代の、昭和二十三年頃から活躍していたハンドボール部、その会OGが誕生してから今年でちょうど十年になる。当時は大活躍をして「東京のカラス」（黒いユニホームのため）とその名をとどろかせていましたこと等々を聞き部員、OG共に大いにはりきつている。

バスケット部

の立候補の機会をもたらす現役との試合には、彼女達におどらぬくらいハッスルし、汗を流してから、天野先生、時田コーチを交え思い出話に花をさかせている。時田氏はOG会創立時からコーチをされており、気がやさしく、タフでハンドボールの経験も豊かで、その上奥様はOG会の会員なのでハンドボールのコーチばかりでなく人生のコーチとしても申し分のない良い人である。

母校を卒業後バスケット部部員は、現在O.B.、O.G.を統一したバス球会を組織している。この会の組織内容は、会長、正副実行委員、各年代の男女代表及び会員となつてゐる。会長は会員互選により選出され、現在は古屋君（第十一回卒）がつとめてい る。また実行委員は男女コーチのうち年長

現在会員は約四十名だが、みんなOG会が誕生してからの人達なので往年の活躍を期待している。このOG会は、在校中一緒に活動した仲間が卒業後、若返って現役

も補助し、今年の富士吉田でのサッカーボードの合同合宿にも、代表としてOGも六名が交代で加わり現役と共にがんばり汗を流

会員の資格は、高校時代にバスケット部に在籍した人、クラブに関係のあつた人、

卒)がつとめている。

またバスケットボールを愛する人というよう
に、幅広い包容力のある会則を設けてい
るので、毎年その年の卒業生を中心として
、男女合せて十数名が入会しており、現在
では会員百名を越すという大世帯である。

バスケットボールの活動は、毎年五月五日と十一
月三日に対現役試合を兼ねた会合を開き、
バスケットボールを通して高校時代の思
出にはなをさせ、時の話題に触れ、未
来を語り、卒業後の交流をはかっている。

年に二回の会合なので会員は互に再会を樂
しみにしており、なかなか盛況である。し
かし、すでに社会人となられた方々は休日
といえどもいろいろ忙がしいのでしよう
思うように参加できないようで、特に高校
を卒業後すぐに勤務につかれる方の多い女
子の参加は男子の半分位というものが現状で
ある。

男子は今まで、井草高校バスケットボ
ルクラブOBの名で練馬区区民大会に参加
し、名門チームの名をほしいままにしてき
たが、来年度からは出場資格に練馬区在住
在勤の人という制限がつけられるので参加
できる会員が少なくなるのが残念である。
現役とバスケットボールとの連絡は、会からコー

チを推挙するという形で保たれている。先
代は男子を古屋君、女子を福住氏（第八回
卒）現在は男子を大沢君、サブコーチとし
て古屋君（第十六回卒）女子は関根さんが

それぞれコーチをつとめており、バスケット
の発展にできるだけ協力している。
今後卒業していく現役諸君が、このバ
スケットボールを基として母校发展のため心よく努力
できるように、また從来の良き伝統を包括
しながら新しい伝統を築いてゆくことがで
きるよう努力するのが、現在バスケットボール会に在
席しているもの全ての務めであるといふ。会
員のことば、これをもとによりいつそうの
活躍と発展を期待したいと思う。

ブラスバンド部

ブラスバンド部のOB会「吹奏楽部卒業
生の会」は、まだユダの立っている、まさ
に出来たてのOB会である。先月（十月）
の十七日に、卒業生の親善と後輩の指導強
化を目的とした、第一回OB会が初めて行
なわれ、その席上、初代会長に橋本孝雄君、
OBとかいう関係を抜きにした、自分達み

未に総会を開く事、などの会則も出来上つ
た。現在四十名ほどの会員がいるが、第一
回の会合には約半数が出席し、前途の見通
しも明るい。

ブラスバンド部は、そのサークルとして
の歴史が浅いため、今までにはOB会を持つ
ところではなく、サークルの基礎固めをす
るのに精いっぱいであった。卒業生は毎年
母校に日参しては現役に交じって、練習や
演奏会に参加して、常に現役と一緒ににな
てサークルの発展を推進して来た。初めの
うちはOBには、OBだという意識が少な
く、現役と一緒にになって活動して来た。母
校の井草祭、あるいは定期演奏会の際に
は、多数のOBが母校に行き、後輩の指導
は勿論のこと、現役と一緒に演奏会に参加
して、OB、現役が一体となって活動を行
つて来た。特に初めての定期演奏会が開か
れた時には、現役がまだ授業を受けていた
うちに母校に行き、会場に当たれていた
講堂を掃除したり椅子を並べたりして、授
業が終るとすぐに演奏会が始まられるよう
に準備をした。こうしたことは、現役の演
奏会なのにもかかわらず、もはや現役とか

んなの演奏会だといふ氣持の現われであつた。

こうしたOBの努力が実り、初めのうちはOBが現役を引張つて行くという形だったものが、次第にサークルの基礎も固り、

一本立ち出来るようになって来た。そこでようやくOBは良き助言者という、いわゆ



るOBの立場でいられるようになったので

ここで初めてOB会が生れた。OB会としての活動は今だ何をしていないが、これか

らは「OB」会の活動も大いに行いたいと思つてゐる。

新聞放送委員会

サークルのOB会は沢山あるが、委員会としてのOB会はこれが唯一だろうと自認している新聞放送委員会のOB会、

通称「あつまる会」が発足したのは、昭和三十五年の十二月のこと。一緒に新聞を作つた仲間が卒業後、散々になつてしまふのは残念だ、というようなことから生れたOB会なので、その目的はもつぱらOBの親睦を深めるということ、堅苦しい規約もなければ会長もない。またそういうことでもって新放委員会だうとなかるうと、井草在校中に新放委員会室に出入りしていた人ならば会員として歓迎するというたまゝになつてゐる。

初めは、会員は全員ニックネームをつけて、お互いに本名で呼んではいけないという約束事があり、投票によつて、珍

品、ガナル君、ヒーターカンズメ等、傑作などニックネームが会員につけられたりした。当時はまだ会員も二十名たらずで、年たのでこのようなことも出来たが、最近は新人が増えて、名簿の上では五十名以上にもなつたので、この面白い企画はいつの間にかやめになつてしまつた。

現在は、親睦のみを目的とした集会を年二三回開いて、ハイキングに行つたり、ゲームをしたりして他の毎年発行されるこの井草会報の編集の仕事に、昔どつた幹柄とばかり大いに協力したりして結構楽しい会になつてゐる。この、「あつまる会」には、現在一つの問題がある。というのは、今まで新聞放送委員会として、新聞、放送が一緒になつてゐたが、昨年より新聞委員会と放送委員会とが分かれてしまつた。これは、今まで新聞放送委員会の後輩がいなくなつてしまつたことである。でもこの問題もその内に解決するだろうとあつたる会の楽天家どもは樂觀している。

伝言板——古い先輩の方の名前が分りませんので井草時代、新聞なり放送なりやつていらした方は、竹村裕（杉並区上荻溝二丁目二四の十二）まで御連絡下さい。

住所変更のお知らせをいたします。（）の一七〇二。D組、落合（中村）美恵・福内は旧姓。尚、ご自分の住所変更是勿論のこと、お友達の新住所が分りましたら至急井草会までご連絡下さい。

◇高校第一回（昭和20年3月）卒

二組、西岡（鬼玉）俊子・松山市道後今市北代一二九四、舩又住宅五号三組、鈴木（永井）陽子・新宿区百人町四丁目新宿住宅R C四三号。室岡（本橋）宏子・大阪市東淀川区井高野町二一。

◇高校第二回（昭和12年3月）卒

一組、山田（佐藤）知子・横浜市港北区下田町三八五の一三。

◇高校第四回（昭和23年3月）卒

一組、太田（中井）澄子・名古屋市北区天道町一の四〇の三〇四。森（中村）千鶴子・山口県下松市大字生野屋字森兼一二八一

の一、徳山石油化学KK社宅。

◇高校第三回（昭和26年3月）卒

D組、池田（倉石）翠子・札幌市南七条西十七丁目一三五六。

◇高校第四回（昭和27年3月）卒

A組、高橋（南雲）一子・川崎市下作延一八四二の一四。B組、高畠（湯川）礼子・北区袋町一の八一八、桐丘アパートN十七

岡市市崎町一二一、開銀アパート。岡市市崎町一二一、開銀アパート。

◇高校第六回（昭和29年3月）卒

B組、金子（岡田）輝子・港区田村町二の一八。E組、大迫（関口）宏子・板橋区下赤塚町五二三。佐々木（武侯）玲子・小平市上水南町一八の五。

◇高校七回（昭和30年3月）卒

D組、石橋満夫・世田谷区玉川等々力三の二八。井樽修・小田原市酒匂一・八八。鵜崎信二・小金井市貫井北町二の九一四。喜

多村尚・中野区松丘三の六の二。田中宏治・草加市柴町松原団地D三〇棟二〇四号。

木下（新井）文子・大宮市西本郷宮原団地六〇二。大森（北）悦子・三鷹市牛込一

子・渋谷区上通り一の六、青森町第一住宅一五〇五。山口恵美子・中野区松丘三の三六の八。渡辺（渡辺）きさ子・杉並区上井草二の一七の二。石塚友子・横浜市保土谷区庵野台二二三の七。

◇高校第十二回（昭和35年3月）卒

A組、伊藤世紀・練馬区豊玉北五の七。牛込杜武・松戸市中和田倉一二七。大谷哲・練馬区関町六の四二四。菊地毅・中野区宮園町一の一八、佐々木方。松本征紀・練馬区向山町一五二八。岡田祥子・練馬区谷原町一の一五〇。川村カツ子・杉並区西荻窪二の七五。原田彌子・練馬区貫井町三三五の一、中村橋アパート四三号。古寺（日隈）公子・中野区桜山町四〇、月見荘。細野恭子・小平市小川西町二一八九。宮武久子・練馬区羽沢一の八。

◇高校第十三回（昭和36年3月）卒

A組、石丸亜子・中野区上高田四の二五。D組、岩上洋子・小平市美園町三九三。

佐々昌子・鎌倉市大町笛目四二五。林セツ子・北九州市若松区山堂町二の三。前洋子・小金井市貫井南町二の四五五。松江千鶴子・練馬区谷原町一の四八二、管野方。

佐々昌子・鎌倉市大町笛目四二五。林セツ子・北九州市若松区山堂町二の三。前洋子・小金井市貫井南町二の四五五。松江千鶴子・練馬区谷原町一の四八二、管野方。